

AI&診療情報管理士科

授業運営・教育効果計測の方針

・資格試験による学習モチベーション維持の廃止

- 資格取得数を絞ったことにより、学生が「資格試験が迫っているから」学習するという状況は作らない。
- 継続的に学び続ける仕組みとして、アウトプットの機会を多く作り、わからない、をわからないまま放置しない仕組みの構築。

・定期試験の廃止

- 診療情報管理士認定試験科目、医療情報技師対策科目については、各回授業時に該当分野の試験過去問演習を実施し評価を行う。
AI科目については授業内で課題を提示し、提出状況等をもとに評価。

わかる！ 覚えた！ を達成
→ 次の授業の理解に
つながる ✨



定着

理解

つまづいたときに、
必ず理解(授業)に
立ち返ることができる。

1回の定期試験で
知識の確認を行わず、
各回の授業を通して
知識の確認を行う。

確認

実践

演習量を確保する。

定着

理解

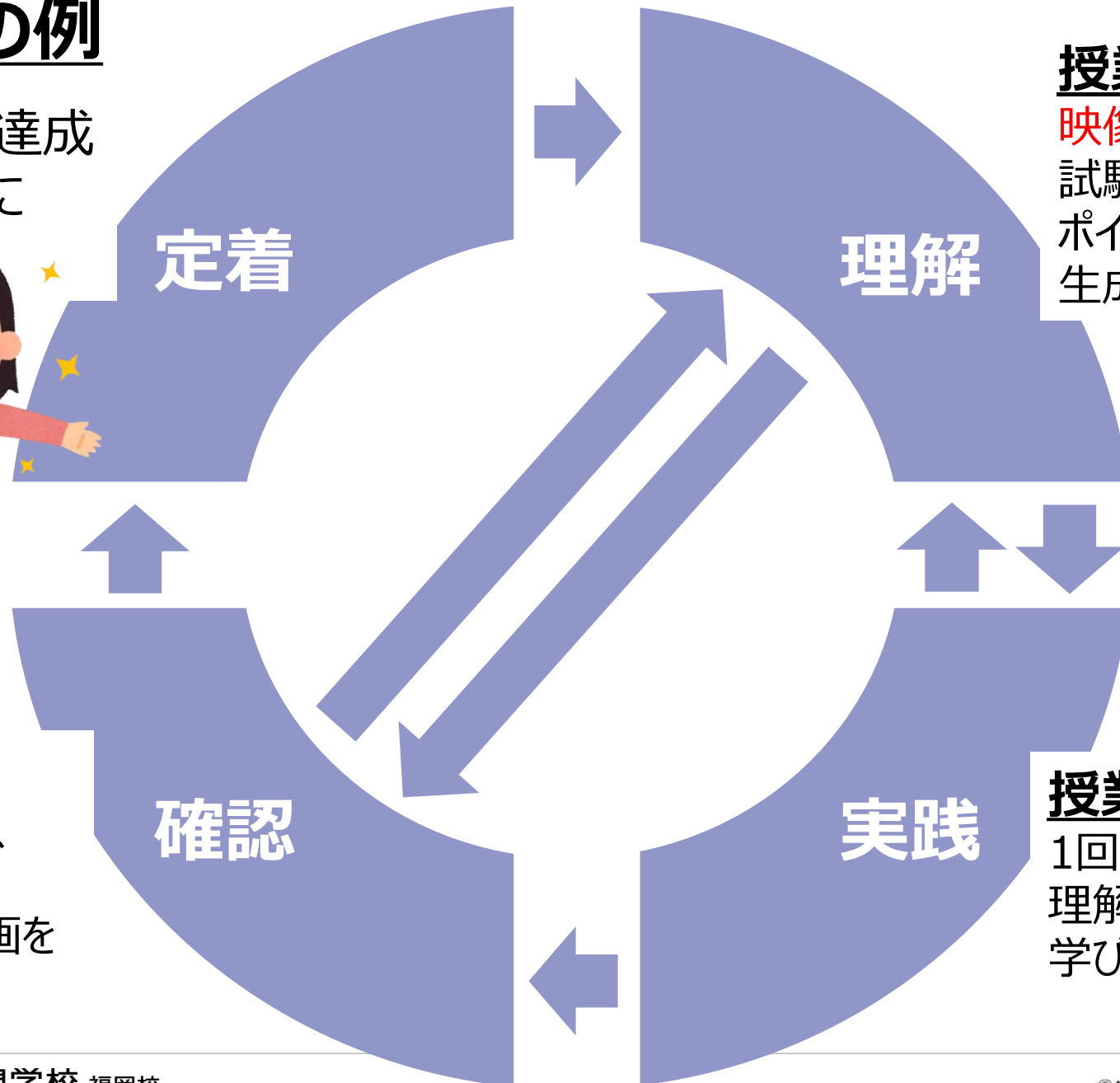
このサイクルを回すことで、学生自身の学習意欲を高める。
自分のペースで、わかる！を繰り返して、より深い理解へ

確認

実践

認定試験科目の例

わかる！ 覚えた！ を達成
→ 次の授業の理解に
つながる ✨



授業

映像授業を視聴。
試験に頻出の内容を中心に
ポイントを絞った授業を実施
生成AIの活用

試験対策科目

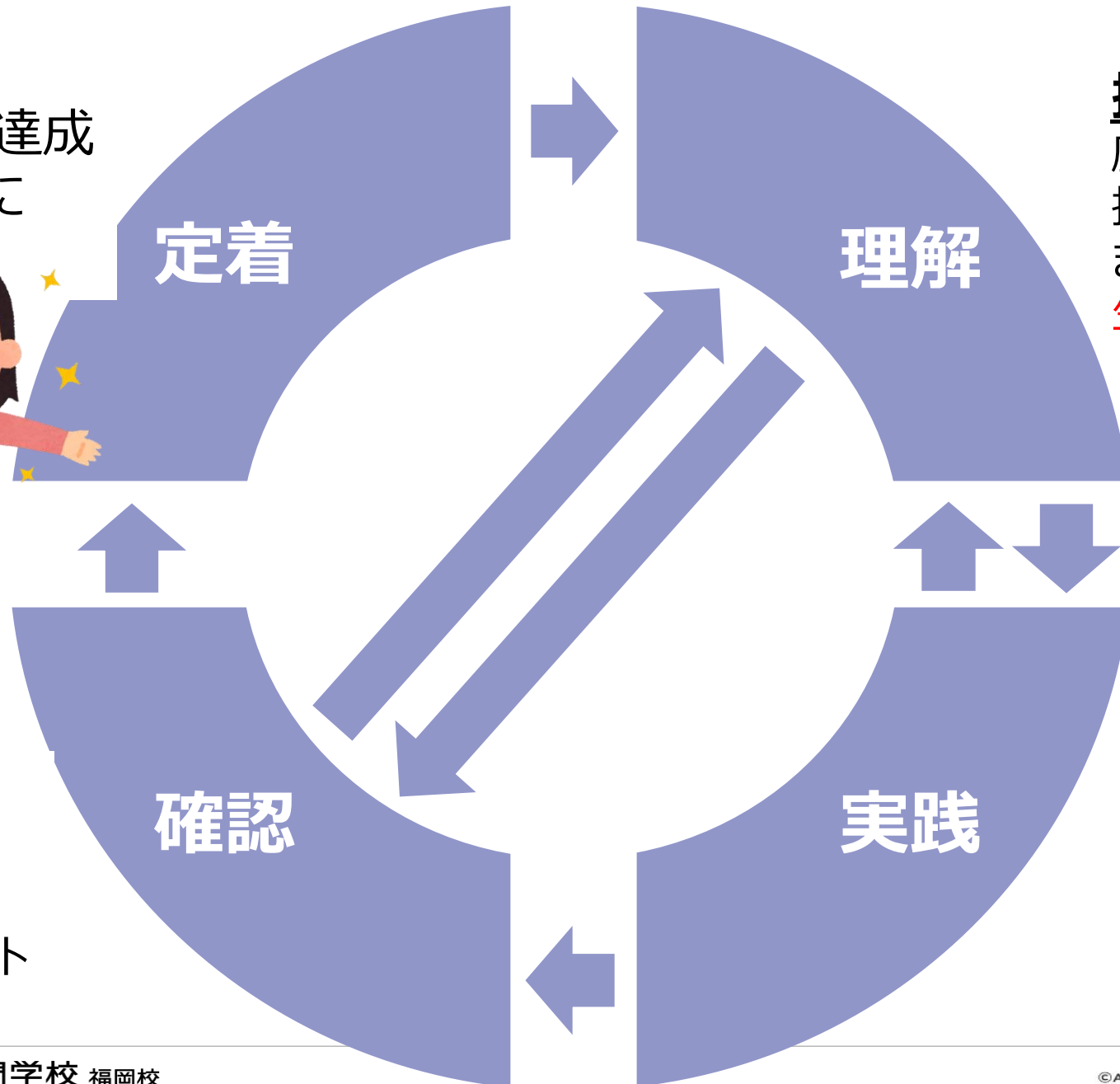
授業の後追いで実施し、
演習量を確保。
わからない点は授業動画を
再確認させる。

授業内での過去問演習

1回の授業内で
理解度の確認を行い、
学びの実践。

AI科目の例

わかる！ 覚えた！ を達成
→ 次の授業の理解に
つながる



授業

座学で学ぶべき内容を
授業で身につける。
または
生成AIに解説を依頼。

課題に対する評価

課題に関する内容の
GPTsを利用した、
生成AIによる確認テスト

授業内の課題

生成AIを利用して
課題を完成させる

定着

理解

課題点：

サイクルを回すための「戦略」と「課題(問いかけ)」が非常に重要。
各回の課題の粒度(難易度)が学生の理解度により変わる可能性がある。
(→到達点としては、最低限のラインだけでなく、上位の基準も設定予定)

確認

実践